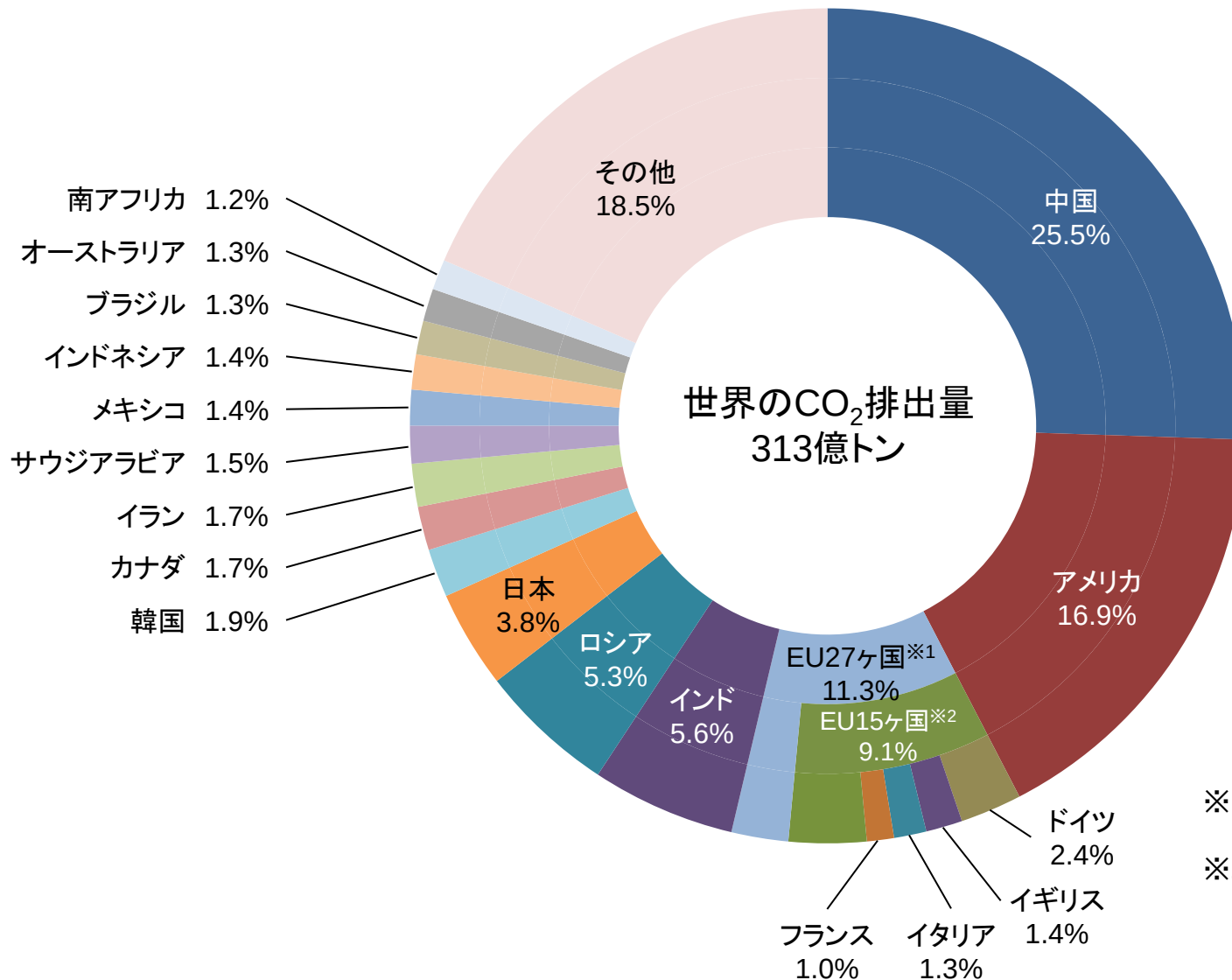


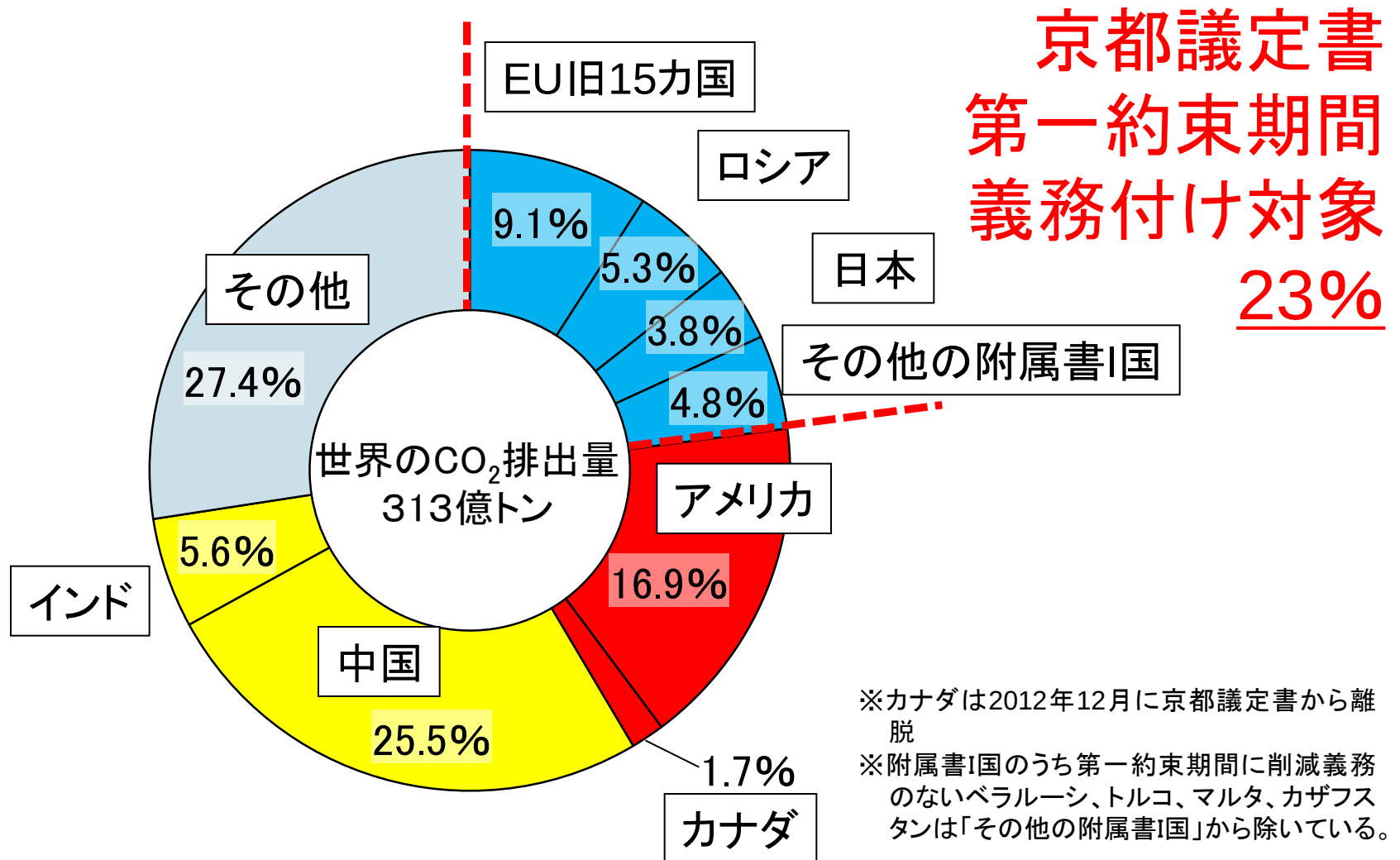
世界のエネルギー起源CO₂排出量(2011年)



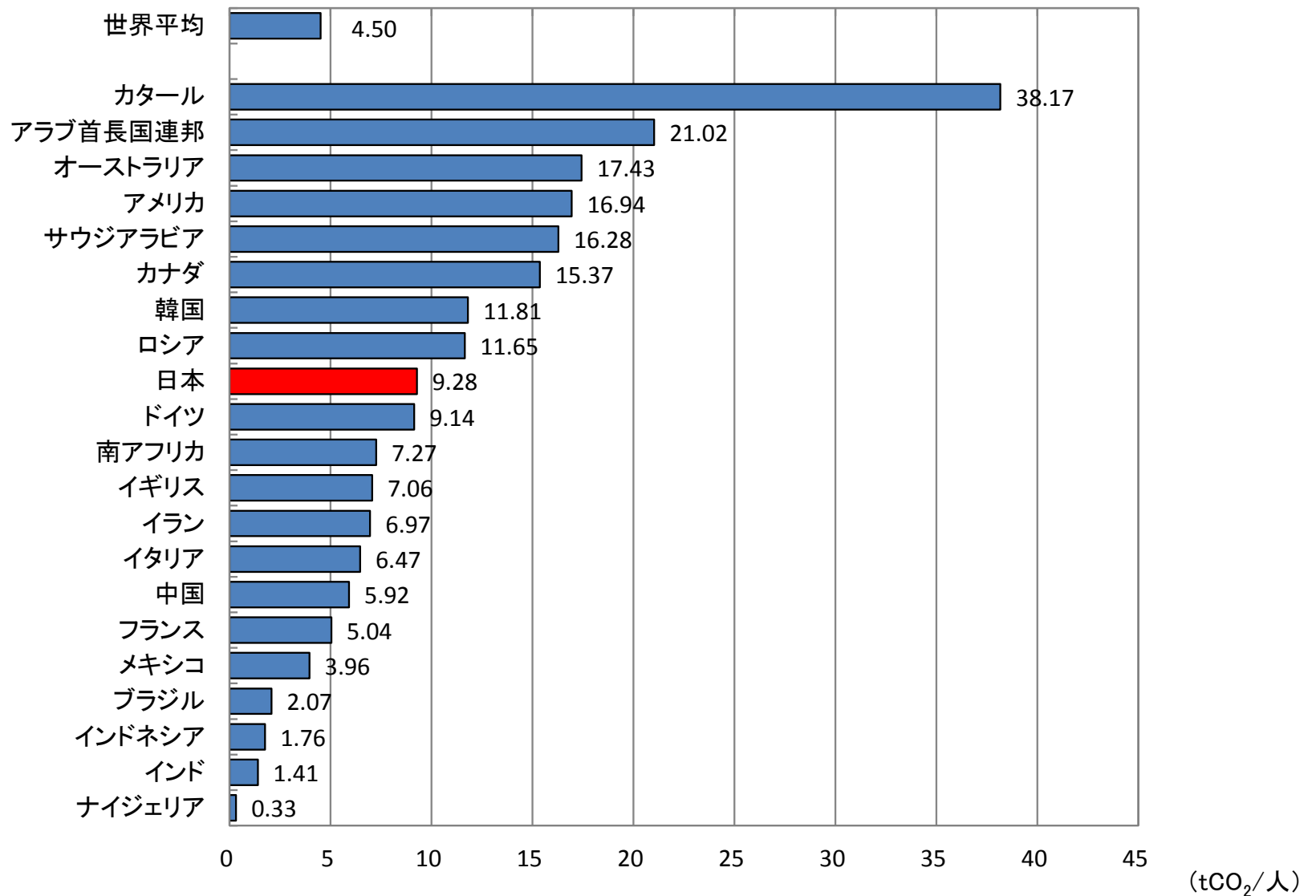
※1 2013年にEUに加盟したクロアチアは含まれていない。

※2 EU15ヶ国は、COP3(京都会議)開催時点での加盟国数である。

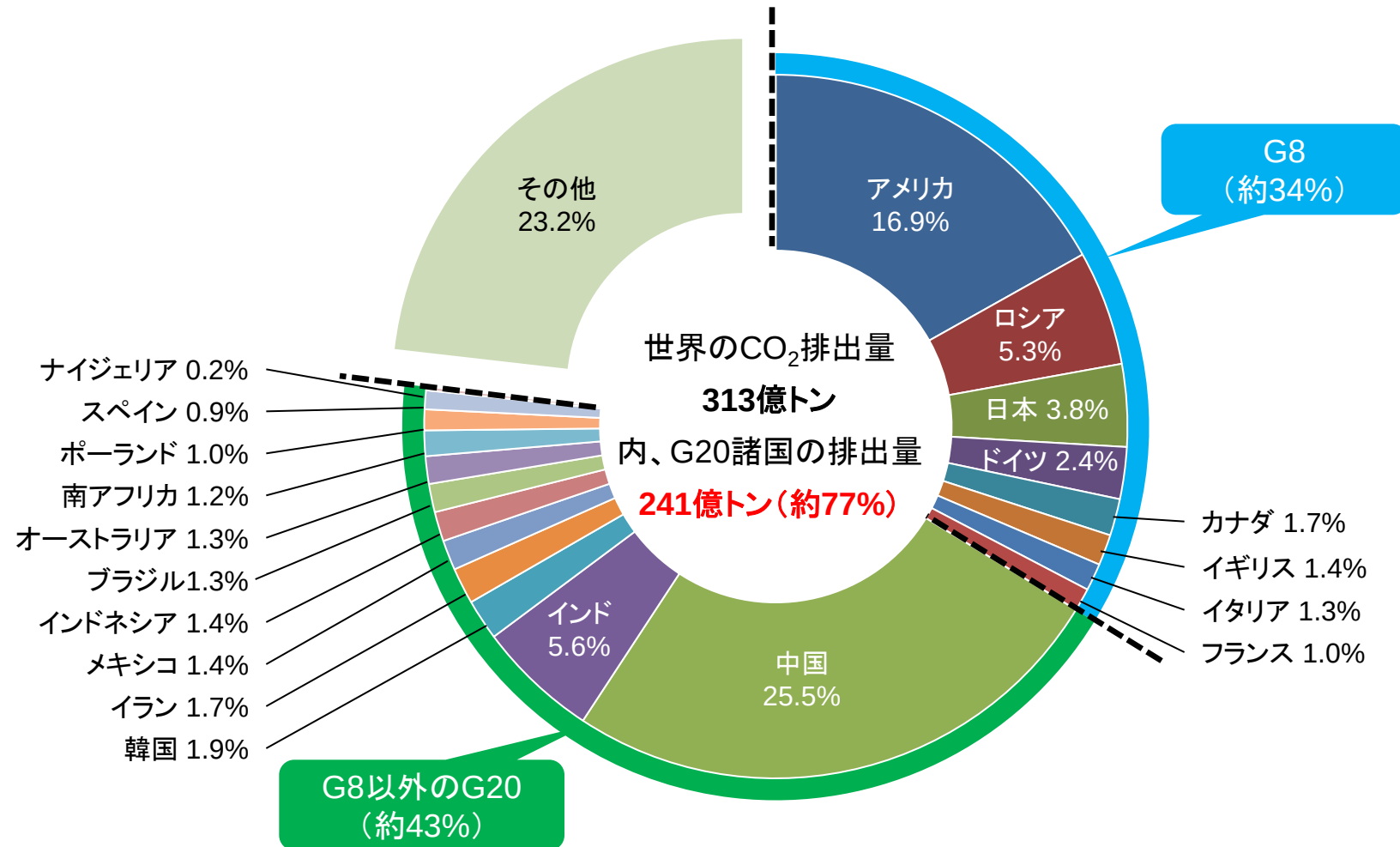
世界のエネルギー起源CO₂排出量(2011年)
に占める京都議定書第一約束期間義務付け対象の割合



主な国別一人当たりエネルギー起源CO₂排出量(2011年)



世界のエネルギー起源CO₂排出量(2011年)に占めるG20諸国の割合

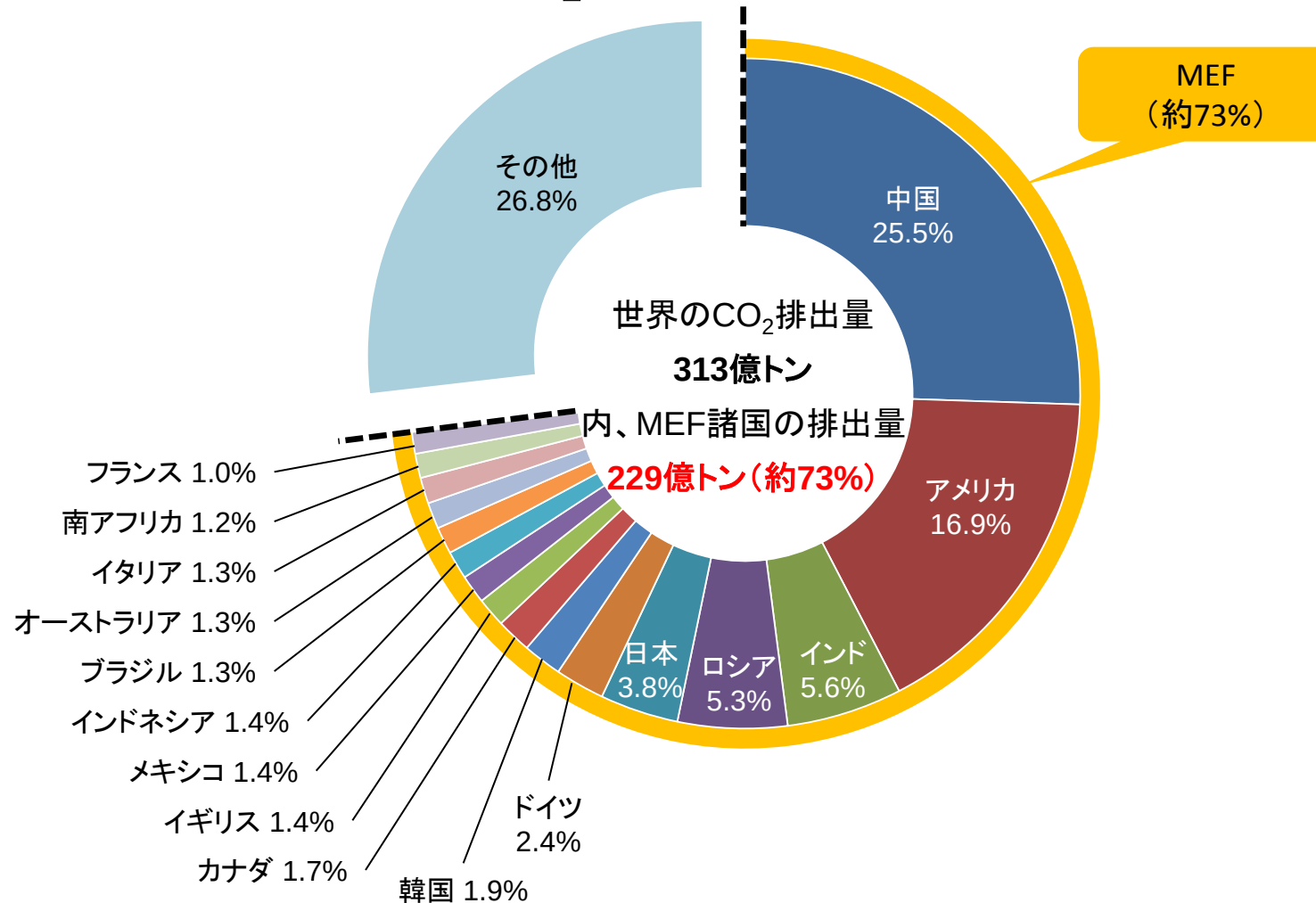


G20(気候変動、クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する対話)諸国								
G8	アメリカ	ロシア	日本	ドイツ	カナダ	イギリス	イタリア	フランス
その他	中国	インド	韓国	イラン	メキシコ	インドネシア	ブラジル	オーストラリア
	南アフリカ	ポーランド	スペイン	ナイジェリア				

※平成20年に千葉県で開催された第4回対話で議長総括が取りまとめられ、G20は終結した。同年の北海道洞爺湖サミットで対話の結果が報告された。

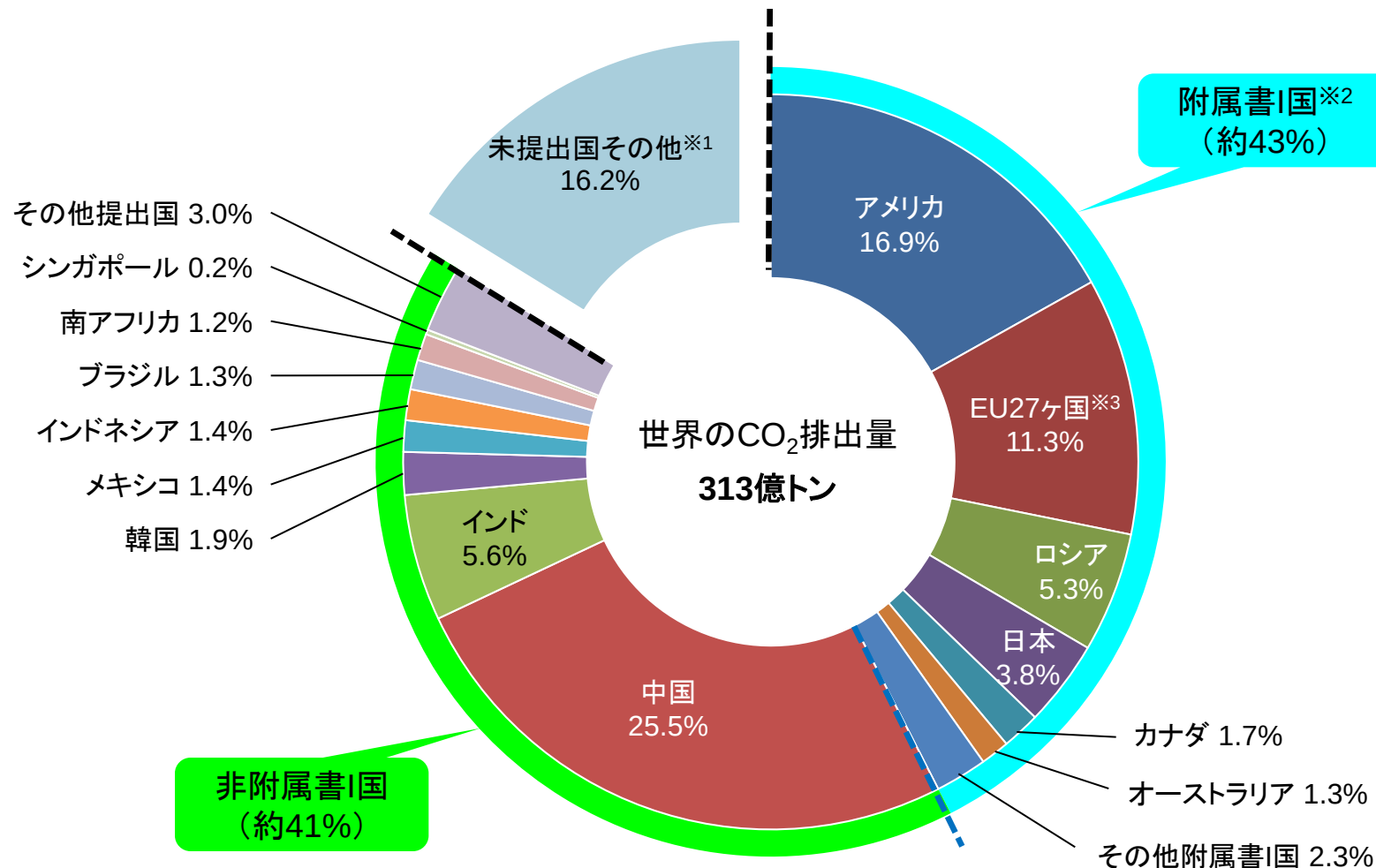
出典：IEA「CO₂ EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION」2013 EDITIONを元に環境省作成

世界のエネルギー起源CO₂排出量(2011年)に占めるMEF諸国の割合



MEF(エネルギーと気候に関する主要国経済フォーラム) 諸国								
MEF (16ヶ国)	中国	アメリカ	インド	ロシア	日本	ドイツ	韓国	カナダ
	イギリス	メキシコ	インドネシア	ブラジル	オーストラリア	イタリア	南アフリカ	フランス

世界のエネルギー起源CO₂排出量(2011年)に占める カンクン合意に基づき緩和目標・行動を提出した国の割合



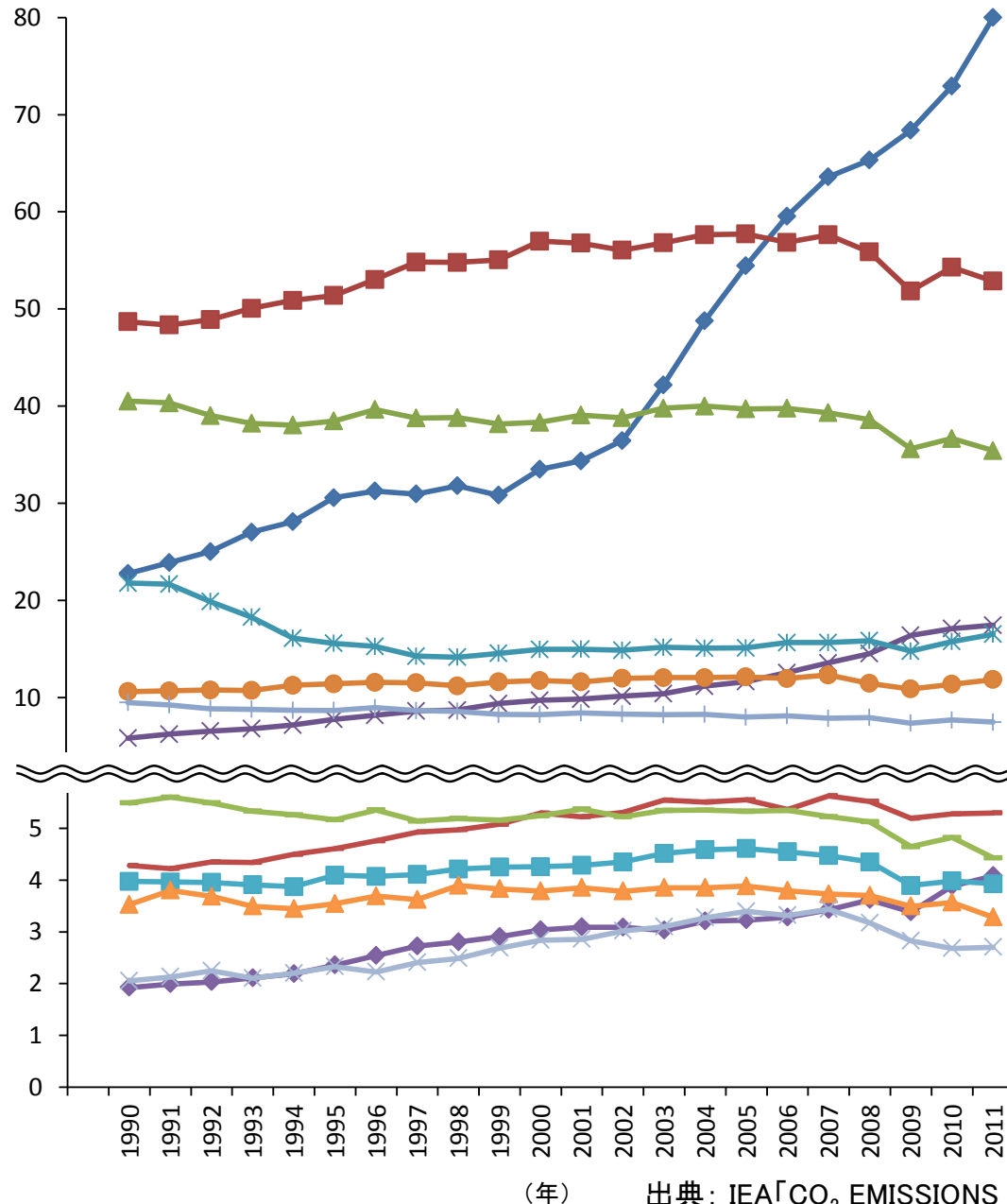
※1 カンクン合意後に緩和目標・行動を提出しているが、IEAにおいて個別の値は掲載されていない国は、「未提出国その他」に含まれている。

※2 ベラルーシ、カザフスタン及びEU27に含まれるキプロス、マルタは含まれているが、未提出であるトルコは含まれていない。

※3 2013年にEUに加盟したクロアチアは含まれていない。

主な国別エネルギー起源CO₂排出量の推移

(億トン-CO₂)



(単位: 億トン-CO₂)

	1990	2011	変化率
中国	22.8	80.0	+251%
アメリカ	48.7	52.9	+9%
EU27ヶ国 ^{※1}	40.5	35.4	-13%
インド	5.8	17.5	+200%
ロシア	21.8	16.5	-24%
日本	10.6	11.9	+12%
ドイツ ^{※2}	9.5	7.5	-21%
カナダ	4.3	5.3	+24%
イギリス ^{※2}	5.5	4.4	-19%
ブラジル	1.9	4.1	+112%
イタリア ^{※2}	4.0	3.9	-1%
フランス ^{※2}	3.5	3.3	-7%
スペイン ^{※2}	2.1	2.7	+32%

※1 2013年にEUに加盟したクロアチアは含まれていない。

※2 EU27ヶ国に含まれる。